

一中学生の最善最高の自覚と実践 NO9(R4.11.28)

○主幹より **一中学生の頑張り**と**命の教育**

11月は、合唱コンクール、文化祭、期末テスト等たくさんの教育活動がありました。一中学生は、どの活動にも熱心に取り組むことができました。

また、先日行われた「命の教育」講演会は、講師田尻由貴子氏(元慈恵病院看護部長)の講話を一人一人が真剣に聴き、命の尊さを感じ、自他の命の大切さに思いをはせる充実した時間となりました。

一中では、毎月14日を「命を考える日」とし、「命」に関する学習を行ったり、生徒の心の状態を把握していくためのアンケートや教育相談を実施する等、命の大切さを学んでいます。

一中職員室前の掲示には、

『教師は生徒の「いのち」の責任者であり、生徒にとって最大の教育環境である』という言葉が書かれています。この言葉を肝に銘じ、今後もいろいろな形で生徒たちの心に響く「命を大切にする教育」を学校総体として実践していきます。

☆最善

『命の尊厳を考えました！人権学習！！』



☆最高

『最高の思い出となりました！文化祭！！』



☆自覚

『深く学びました！「命の教育」講演会！！』



☆実践

『みんなのために整理整頓！図書委員会！！』

